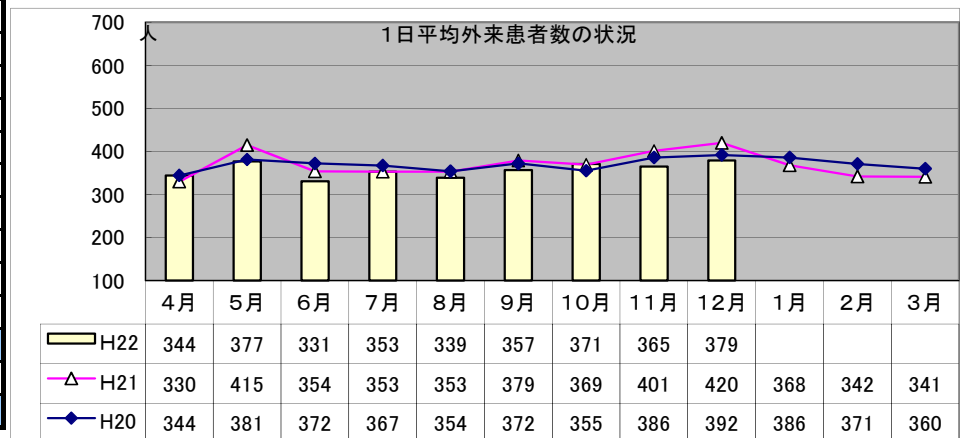
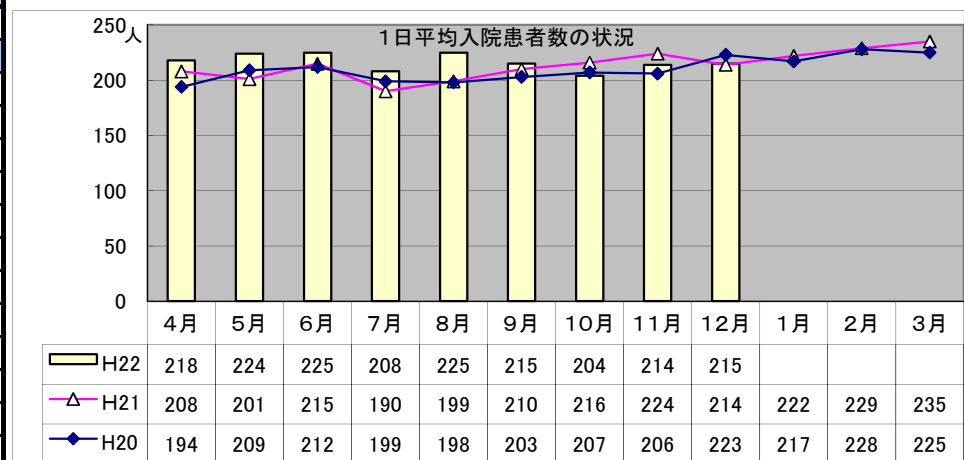
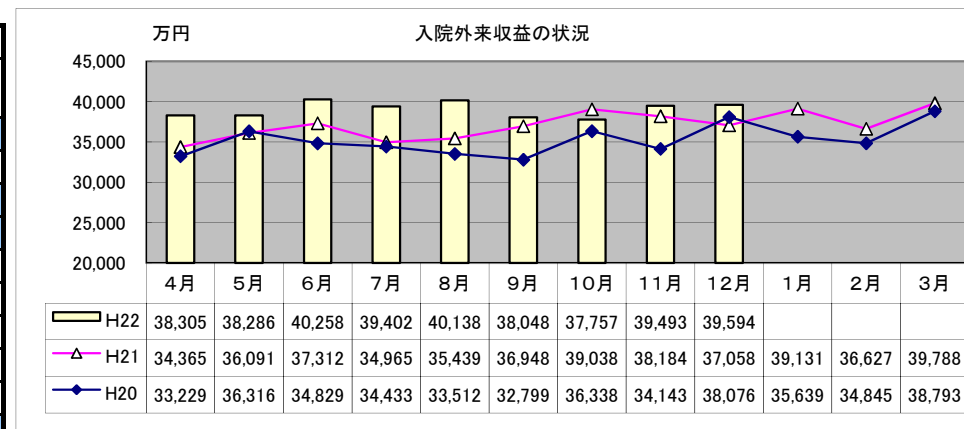


H22年度（12月末現在） 収益的収支の状況及び決算見込 単位：千円、%

	12月末現在			3月末（決算）		
	H22	H21	前年度比	H22見込	H21決算	前年度比
	E	F	E-F	G	H	G-H
収入						
医業収益 a	3,732,766	3,446,100	286,666	4,941,066	4,697,055	244,011
入院外来収益	3,435,040	3,163,222	271,818	4,609,120	4,359,540	249,580
入院収益	2,508,873	2,284,142	224,731	3,381,423	3,185,548	195,875
外来収益	926,167	879,080	47,087	1,227,697	1,173,992	53,705
その他医業収益	297,726	282,878	14,848	331,946	337,515	△ 5,569
うち他会計負担金	189,821	181,000	8,821	189,821	205,132	△ 15,311
医業外収益 b	179,085	178,017	1,068	377,934	301,665	76,269
うち他会計負担金・補助金	160,179	169,000	△ 8,821	349,320	278,055	71,265
特別利益 c	100,027	119,695	△ 19,668	200,029	200,024	5
総収益 A (a + b + c)	4,011,878	3,743,812	268,066	5,519,029	5,198,744	320,285
費用						
医業費用 d	3,708,105	3,552,204	155,901	5,105,601	4,815,588	290,013
給与費	2,248,620	2,160,747	87,873	3,137,918	2,929,099	208,819
給料等	1,756,213	1,671,893	84,320	2,385,391	2,277,806	107,585
賞与	438,527	456,424	△ 17,897	438,527	437,566	961
退職金	53,880	32,430	21,450	314,000	213,727	100,273
材料費	826,507	763,908	62,599	1,115,422	1,047,146	68,276
薬品費	458,538	431,986	26,552	622,309	580,718	41,591
診療材料費	361,981	328,827	33,154	485,024	462,938	22,086
給食材料費	0	0	0	0	0	0
医療消耗備品費	5,988	3,095	2,893	8,089	3,490	4,599
経費	450,640	491,522	△ 40,882	600,885	665,871	△ 64,986
光熱費	53,469	52,644	825	72,494	68,461	4,033
燃料費	22,414	19,682	2,732	31,406	26,119	5,287
修繕費	40,540	66,506	△ 25,966	52,540	112,357	△ 59,817
委託料	252,410	249,254	3,156	335,510	330,832	4,678
賃借料	25,494	47,996	△ 22,502	34,494	56,671	△ 22,177
その他経費	56,313	55,440	873	74,441	71,431	3,010
減価償却費	172,935	128,205	44,730	232,265	161,269	70,996
資産減耗費	0	0	0	6,000	2,141	3,859
研究研修費	9,403	7,822	1,581	13,111	10,062	3,049
医業外費用 e	103,111	128,436	△ 25,325	170,662	201,586	△ 30,924
支払利息	42,648	41,706	942	86,099	88,041	△ 1,942
雑損失	60,463	86,730	△ 26,267	84,563	113,545	△ 28,982
特別損失 f	8,120	3,849	4,271	13,122	6,994	6,128
総費用 B (d + e + f)	3,819,336	3,684,489	134,847	5,289,385	5,024,168	265,217
医業収支 a-d	24,661	△ 106,104	130,765	△ 164,535	△ 118,533	△ 46,002
差引収支 A-B	192,542	59,323	133,219	229,644	174,576	55,068



主な経営指標 (平成22年度)

入院

荒尾市民病院

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延べ患者数 人	20	5,812	6,491	6,358	6,179	6,146	6,091	6,409	6,186	6,915	6,731	6,382	6,968	76,668	6,389
	21	6,234	6,242	6,438	5,883	6,158	6,309	6,686	6,727	6,631	6,878	6,406	7,278	77,870	6,489
	22	6,541	6,935	6,743	6,456	6,966	6,458	6,336	6,423	6,669				59,527	6,614
	前年比	307	693	305	573	808	149	△ 350	△ 304	38				△ 18,343	125
1日平均患者数 人	20	194	209	212	199	198	203	207	206	223	217	228	225		210
	21	208	201	215	190	199	210	216	224	214	222	229	235		213
	22	218	224	225	208	225	215	204	214	215					
	前年比	10	23	10	18	26	5	△ 12	△ 10	1					
病床利用率 (274床) %	20	70.7	76.4	77.3	72.7	72.4	74.1	75.5	75.3	81.4	79.2	83.2	82.0		76.7
	21	75.8	73.5	78.3	69.3	72.5	76.8	78.7	81.8	78.0	81.0	83.5	85.7		77.9
	22	79.6	81.6	82.0	76.0	82.0	78.6	74.6	78.1	78.5					
	前年比	3.8	8.1	3.7	6.7	9.5	1.8	△ 4.1	△ 3.7	0.5					
平均在院日数 除外患者除く	20	15.6	19.1	17.0	16.9	16.9	17.8	17.2	16.6	16.9	18.9	18.7	18.4		17.5
	21	17.8	18.3	17.0	16.4	17.1	17.1	18.9	19.2	18.7	19.2	19.7	18.0		18.1
	22	16.6	21.1	18.8	16.5	17.1	16.8	17.0	14.3	16.3					
	前年比	△ 1.2	2.8	1.8	0.1	0.0	△ 0.3	△ 1.9	△ 4.9	△ 2.4					
診療単価 円	20	41,498	41,588	39,914	38,987	39,479	38,640	40,711	40,899	41,021	38,677	40,521	41,322		40,271
	21	39,671	42,560	41,758	40,756	41,157	42,542	41,996	41,437	39,735	42,247	42,437	40,147		41,370
	22	42,797	41,033	44,162	44,178	41,636	42,002	42,027	43,753	43,040					42,736
	前年比	3,126	△ 1,527	2,404	3,422	479	△ 540	31	2,316	3,305					1,366
新規入院患者数 人	20	308	276	308	304	286	283	284	302	300	303	281	291	3,526	294
	21	280	268	298	288	293	303	297	285	287	297	267	315	3,478	290
	22	285	259	262	292	311	277	285	325	281				2,577	286
	前年比	5	△ 9	△ 36	4	18	△ 26	△ 12	40	△ 6				△ 901	△ 4

外来

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延べ患者数 人	20	7,218	7,614	7,814	8,069	7,442	7,440	7,807	6,952	7,449	7,327	7,056	7,564	89,752	7,479
	21	6,929	7,465	7,779	7,764	7,416	7,199	7,757	7,626	7,980	6,999	6,492	7,499	88,905	7,409
	22	7,233	6,784	7,282	7,421	7,465	7,136	7,410	7,296	7,194				65,221	7,247
	前年比	304	△ 681	△ 497	△ 343	49	△ 63	△ 347	△ 330	△ 786				△ 23,684	△ 162
1日平均患者数 人	20	343	381	372	367	354	372	355	386	392	386	371	360		370
	21	330	415	354	353	353	379	369	401	420	368	342	341		369
	22	344	377	331	353	339	357	371	365	379					357
	前年比	14	△ 38	△ 23	0	△ 14	△ 22	2	△ 36	△ 41					△ 11
診療単価 円	20	12,622	12,243	12,096	12,819	12,428	12,450	13,125	12,720	13,035	13,111	12,734	13,220		12,717
	21	13,904	12,760	13,405	14,152	13,611	14,042	14,128	13,519	13,441	14,393	14,543	14,093		13,833
	22	14,256	14,489	14,392	14,662	14,032	14,510	14,208	14,666	14,343					14,395
	前年比	352	1,729	987	510	421	468	80	1,147	902					563

平成21年度荒尾市民病院中期経営計画評価調書及び平成22年度取組状況

【達成度】 ↑計画以上の実績 →計画どおりの実績 ↓計画を下回る実績

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
1. 市民病院の目指す医療	(1)急性期医療		17診療科を維持・充実させるとともに、7対1入院入院基本料を基本に状況に応じた最適な体制を構築する。また、医療資源(人、もの、金)を急性期部門に集中させ、平均在院日数17日以内を当面の目標とし、将来的には14日程度を目指すことにより、短期入院医療を中心に展開する。	①診療科数:26 ②看護体制:7対1 ③平均在院日数:18.1日	①↑ ②→ ③↓	①平均在院日数:17.7日(11月現在)	
	(2)救急医療		複数の救急医を確保し、平成23年度を目標に10床程度の専門病床を有した「新型救命救急センター」の指定を目指す。	医師確保: 3名増員のうち1名が救急医療の指導医	—	新型救命救急センターについては検討中	
	(3)地域医療		地域医療支援病院の取得及び地域連携バスの早期導入を図る。	①H21.7.28に地域医療支援病院として承認される。 ②地域連携バスについては、今後の対応。	①→ ②—	実施中	
	(4)予防医療・生活習慣病予防		メタボリック症候群(内臓脂肪症候群)に着目した生活習慣病予防対策の実施。	健診受診数: H19→3,786人 H20→4,141人 H21→4,814人	—	地域事業所訪問啓発活動	
	(5)高齢者医療		生命予後に影響する血管系疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、運動器疾患、腎臓疾患等に対応できる診療科の充実を目指す。	医師確保とともに、今後に向けて取り組んでいく。	—	継続	
	(6)感染症		医療体制の確保	感染病床4床の確保	→	インフルエンザ対策:陰圧エアータント新設	

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考		
大	中	小							
2. 一般会計との負担区分	(1) 繰入金の根拠	総額	690,000 千円	690,000 千円	→	—			
		収益的収支	医業収益	救急医療	205,132 千円	205,132 千円	→	—	
			医業外収益	研究研修費 経営研修費	5,031 千円	5,031 千円	→	—	
				追加費用負担経費	9,731 千円	9,731 千円	→	—	
				基礎年金負担経費	31,821 千円	31,821 千円	→	—	
				児童手当	4,740 千円	4,740 千円	→	—	
				公立病院特例債等 償還経費(利息)	9,230 千円	9,230 千円	→	—	
				建設改良(利息)	35,030 千円	35,030 千円	→	—	
				高度医療	75,615 千円	75,615 千円	→	—	
				小児医療	15,594 千円	15,594 千円	→	—	
				院内保育所の運営	12,780 千円	12,780 千円	→	—	
		特別	公立病院特例債等 償還経費(元金)	200,000 千円	200,000 千円	→	—		
		資本的収支	他会計出資	建設改良(元金)	85,296 千円	85,296 千円	→	—	
		(2) 繰出基本以上の繰入等	地域活性化・経済危機交付金	千円	66,483 千円	—	—		
基本以上退職者増による経費	千円		12,000 千円	—	—				

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
3. 経営基盤の安定	(1) 経営の効率化 ① 民間的手法の導入	収益と費用の均衡	医業収益: 4,598,000千円 医業費用: 4,815,000千円 医業損益: -217,000千円	医業収益: 4,697,000千円 医業費用: 4,815,000千円 医業損益: -118,000千円	↑	別紙	
		経営形態の見直し	地方公営企業法の全部適用	H21.4.1に地方公営企業法の全部適用を実施	→	今後の状況を見て判断	
		民間出身者の採用	理学療法士、作業療法士及び事務職員等の民間企業出身の採用。	【民間採用者数】(21年度) ①理学療法士: 1名 ②作業療法士: 0名 ③言語聴覚士: 1名 ④事務職員: 4名	→	【民間採用者数】 ①薬剤師: 4名 ②放射線技師: 1名 ③臨床工学士: 2名 ④事務職員: 1名	
		民間委託の活用	経費削減に努めるとともに、薬品においては、消化払い(使用分発注)システムの導入を図る。診療材料一括SPD管理システムにおける診療材料価格削減交渉について強化する。	診療材料価格交渉においては、前年度比で1.8%の削減となり、今後さらに交渉を進めていきたい。	—	必要に応じて対応	
		能率給制度の実施	公正な評価システムの確立と運用を前提とした能率給制度の導入を検討。	医師は業務手当として、収入確保を基本とした総合的な能率給を採用	—	必要に応じて対応	
		管理会計の実施	キャッシュフローシステム構築や原価計算及びBSCを導入し、戦略的経営ができるような体制を目指す。	今後の対応	↓	今後の対応	
	② 収入増加・確保対策	医師の確保	大学医局に積極的に医師派遣を依頼するとともに、インターネットなどを通じて、医局外からの確保、短時間正職員制度の導入による女性医師の確保や教育体制の充実による研修医の受入に努める。また、医師修学資金貸与制度の実施を検討する。平成21年度から3年間で、4人増の医師確保を目指す。	①医師数: 28人→31人(3名増: 増えた診療科は救急科、形成外科、外科) ②H21.9.24に厚生労働省から基幹型臨床研修病院の指定を受ける。 ③H22.4.1に医学生奨学金貸付制度を実施。 ④短時間職員制度については検討中。 ⑤院内保育所の設置。H22.4より運用開始。	→	①医師数: 31名→33名(2名増: 増えた診療科は脳外科、小児科)	更なる医師確保
		医師の過重労働対策	過重労働の解消を図り、医師の勤務環境の改善を目指す。	①医療秘書の採用: 7人 ②外来クラークの採用: 検討中	→	①医療秘書: 9名 ②外来クラーク: 2名(現在)	

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
		看護師の確保	看護学校への訪問や広告媒体を使った看護師確保に努めるとともに、教育・研修制度を構築するなど、認定看護師等の専門的な研修を受けた看護師の育成・確保に努める。また、院内保育所の設置を検討する。	①看護師数:201人→202人(1名増) ②認定看護師:1人 ③H22.4.2に院内保育所を設置	→	①看護師数:202名→208名(6名増) ②認定看護師:3名(現在1名研修中)(H23.1現在)	
		コメディカルの確保	定期採用ではなく、随時採用により、薬剤師の確保に努めるとともに、リハビリスタッフ等の職員維持に努める。	コメディカル数:50人→51人(1名増) (内訳) ①リハビリ技師:13人→14人 ②放射線技師:10人→11人 ③薬剤師:8人→7人	→	コメディカル:59名(内訳) ①リハビリ:18名 ②放射線:12名 ③薬剤師:9名 ④検査:14名 ⑤臨床:6名	
		人材の育成	各種学会の教育関連施設の指定を目指すとともに、認定看護師や認定技師等の修得を支援するなど、高度・先進医療に従事する医師や医療スタッフの知識・技術の修得に助力する。	①研究研修費:9,658千円→10,060千円 ②認定看護師:1人(計3人) ③認定技師免許更新の更新料負担 ④教育関連施設の指定	→	継続	
		適正な診療報酬の確保	診療報酬の算定漏れがないようなシステムを構築するとともに、診療情報管理士などの医事課職員によるチェック体制の強化を図る。	平成22年度システム開発予定	—	継続	
		DPC(診断群分類別包括評価)	良質かつ効率的な医療を展開するために、DPC算定病院への転換を図るとともに、機能評価係数に加算される施設基準の取得や平均在院日数の短縮、クリニカルパスの利用促進を図る。 【実施時期】 ①DPC算定病院:H21.7 ②地域医療支援病院加算:H21.10	①H21.4.1にDPCを導入 ②H21.7.28に地域医療支援病院加算を取得※再掲 ③平均在院日数:18.1日※再掲	①→ ②→ ③↓	実施中	
		病床利用率のUP	病床利用率:78.5%	病床利用率:77.9%	↓	病床利用率:79.1%	
		平均在院日数の短縮	①平均在院日数:17.0日 ②入院診療単価:40,627円	①平均在院日数:18.1日※再掲 ②入院診療単価:41,370円	①↓ ②↑	①平均在院日数:17.7日※再掲 ②入院診療単価:42,699円	

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
		各施設基準取得による収入の増加	①地域医療支援病院 ・紹介率40% ・逆紹介率60% ②新型救命救急センター ・ヘリポートの設置 ・ドクターカーの設置	①H21.7.28に熊本県から地域医療支援病院を取得。※再掲 ・紹介率59.4% ・逆紹介率65.2% ②未実施	①↑ ②↓	・紹介率56.6% ・逆紹介率65.6% (H22.11現在)	
		広報活動	①広報あらお掲載 ②「なしの花」発行 ③「ひまわり」発行 ④出前講座実施回数	①広報あらお掲載:12回 ②「なしの花」発行:12回 ③「ひまわり」発行:1回 ④出前講座実施:8回	→	前年度同様	
	③事業規模・形態の見直し	適正な病床数	①病床数:274 ②1室当りの病床数: ③救急用病室の使用 ③特別室の増床	①病床数:274 ②1室当りの病床数:5床→4床、3床→2床 ③特別室の増床(13床→17床)	→	—	
		効率的な病棟編成	【実施時期】 ①救命救急センターの確立 ②ICU加算:H24.4 ③亜急性期病床:H22.4 ④緩和ケア診療加算:H22.4	①亜急性期病床の増床 ②緩和ケア外来診療についてH22実施への準備	—	①4月より緩和ケア外来診療開始	
	④経費削減・抑制対策	職員数の適正化	①医師 ②コメディカル ③看護師 ④事務職員	①医師:31名 ②コメディカル:51名 ③看護師:202名 ④事務職員:31名 ※H22.3.31現在	—	①医師:33名 ②コメディ:59名 ③看護師:208名 ④事務職員:28名 ※H23.1.1現在	
		給与額の適正化	職員給与対医業収益比率:62.1%	職員給与対医業収益比率:57.7%※実績値	↑	給与カット率の緩和	
		諸手当の見直し	①不相当と指摘されている手当等 の見直し ②委託制度や嘱託職員との契約など 効率的な運用	検査手当など廃止を行う。また、 委託職員から臨時嘱託職員への 切り替えを実施。	→	①待機手当の見直し ②年末年始代休付加の撤廃	
		IT化の推進	①オーダーリングシステムの更新及び 電子カルテの導入 ②地域医療機関とのデータ共有	①H21.10.13に電子カルテを導入 ②地域医療機関とのデータ共有	→	—	
		薬剤の価格交渉	材料費対医業収益比率:21.3%	材料費対医業収益比率:22.3%	↓	薬価交渉(薬価基準の12.83%)	

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
		DPCに対応した薬剤・診療材料費の仕入	ジェネリック品の割合:30%※H23年度	21年度:ジェネリック品の割合:12.7%	—	ジェネリック品の割合:13.1%	
		診療材料費の院外一括供給方式の採用	①一括SPD化の推進 ②総仕入額に係る診療材料費の削減割合:2.5%※H22年度	①一括SPD化:実施 ②総仕入額に係る診療材料費の削減割合:1.8%(21年度まで)	①→ ②—	実施中	
		光熱水費・燃料費の削減	前年度より縮小 ①光熱水費:71,678千円 ・電気料:44,729千円 ・上水道:11,074千円 ・下水道:15,875千円 ②燃料費:40,692千円 ・灯油:39,761千円 ・LPガス:645千円 ・その他:286千円	①光熱水費:68,461千円 ・電気料:43,295千円 ・上水道:10,245千円 ・下水道:14,921千円 ②燃料費:26,119千円 ・灯油:25,356千円 ・LPガス:524千円 ・その他:239千円	①↑ ②↑	継続	
		不納欠損額の縮小	前年度より縮小:24,009千円(前年度)	不納欠損額:3,145千円	↑	継続	
	⑤その他の課題	退職給与金の高額化と積み立て不足	退職給与引当金の実施	退職給付引当金については、まだ不良債務解消に取り組んでいる最中であり、今後経営の安定化とともに処理を行う。	↓	今後の対応	
		建物・設備の老朽化	①将来の建設や全面改修に対応できる専門職員の育成	安定した経営のもとに建物建て替え構想の実現	—	今後の対応	
		定数条例による対応の遅れの懸念	職員定数:355人	職員定数:355人	—	今後の対応	
		連結決算に対する評価	①不良債務額:1,210,000千円 ②不良債務比率:26.4%	①不良債務額:592,521千円 ②不良債務比率:12.6%	①↑ ②↑	今後の対応	
	(2)経営形態の見直し ①経営形態の比較		H21.4.1に地方公営企業法の全部適用を実施	H21.4.1に地方公営企業法の全部適用を実施	→	今後の状況を見て判断	
	②経営形態見直し計画		経営改善計画に著しく違いが生じた場合には、他の経営形態(地方独立行政法人、指定管理者、民間移譲)等への移行について、改めて検討を行う。	—	→	今後の状況を見て判断	

項目			H21 目標	H21 実績	達成度	H22 取組状況	備考
大	中	小					
	(3)再編・ネットワーク化 ①二次医療圏内の公立 病院等配置の状況		有明医療圏において、荒尾市民病院のほか、公立玉名中央病院、和水町立病院が存在し、福岡県大牟田市には、大牟田市立総合病院が存在する。	—	—	—	
	②第5次熊本県保健医療 計画における今後の方向 性		4疾病5事業の推進 ※急性心筋梗塞及び小児医療の 指定	—	—	—	
	③再編・ネットワーク化計 画		H23年度までに再編・統合の結論を 取りまとめる。	—	—	—	